

東洲斎写楽

江戸時代中期に活躍した浮世絵師。日本のみならず世界でも有名な浮世絵師の一人として知られる。1794 年(寛政 6 年)5 月から翌 95 年(寛政 7 年)1 月までのわずか 10 か月という短い期間に、歌舞伎を題材とした役者絵や相撲の力士絵を次々と制作し、こつ然と消えた「謎の絵師」といわれている。写楽とはいったい何者で誰なのか、前期と後期で表現が大きく変わるうえ、なぜ短期間で活動を停止してしまったかなど、美術史界だけではなく、画家や分野の異なる学者などから多くの謎解き論争が起こったことで知られている。近年の研究で、阿波徳島藩のお抱え能役者・斎藤十郎兵衛とする説が有力視されている。雲母摺・大判錦絵の役者大首絵 28 図は、舞台上演じる歌舞伎役者たちの一瞬の表情をとらえて描かれ、美術的に最も評価が高い。